



次第

- 1 挨拶
- 2 議事
 - (1) 連続立体交差事業について
 - (2) 東伏見駅周辺地区の現況と課題
 - (3) 質疑応答
 - (4) 意見交換
- 3 閉会

1 挨拶

2 議事

- (1) 連続立体交差事業について
 - (2) 東伏見駅周辺地区の現況と課題
 - (3) 質疑応答
 - (4) 意見交換
- 「東伏見駅周辺地区をどんなまちにしたいか」

(1) 連続立体交差事業について

用地補償説明会

■開催日・参加者数

日程	会場	参加者数
令和6年12月18日（水）	西東京市立東伏見小学校	84名
令和6年12月19日（木）	練馬区立上石神井中学校	167名
令和6年12月20日（金）	練馬区立関町小学校	92名
令和6年12月21日（土）	杉並区立三谷小学校	107名

■主な質問

- ・いつごろまでに立ち退くのか
- ・借家人との折衝は
- ・残地の取り扱い
- ・買収範囲を示した図面が欲しい
- ・工作物や庭木の補償があるのか。
- ・個別の話し合いのスケジュールは。

■当日資料

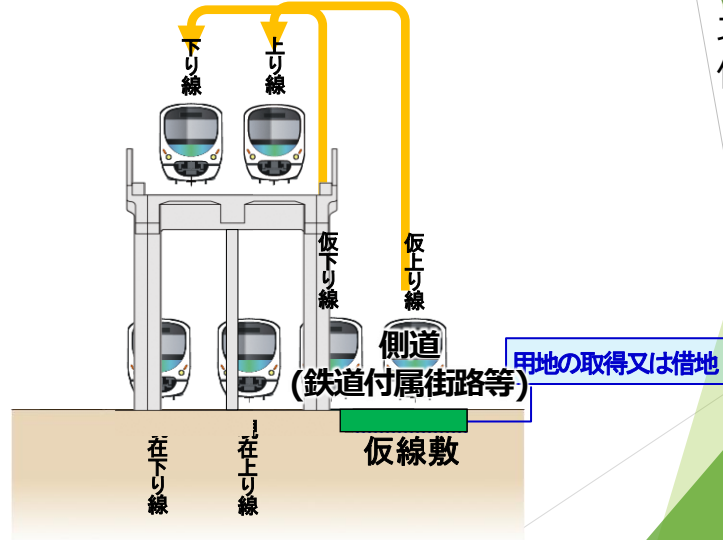
用地補償説明会当日に配布された資料は、東京都建設局のホームページからご確認頂けます。



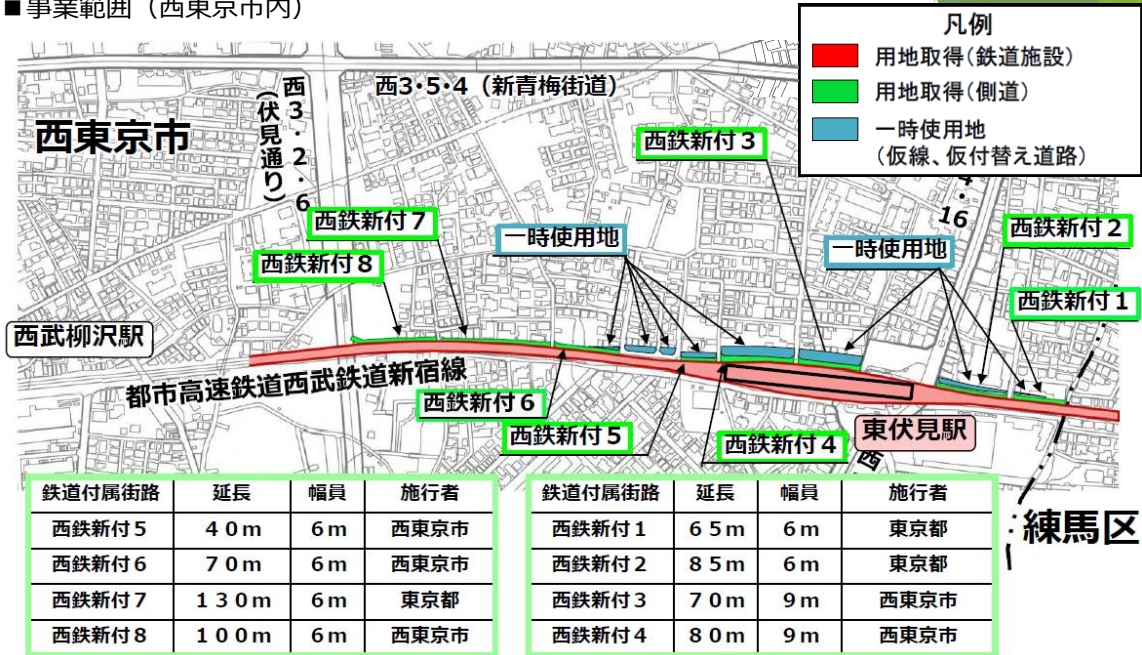
■ 施工方法

南側

北側



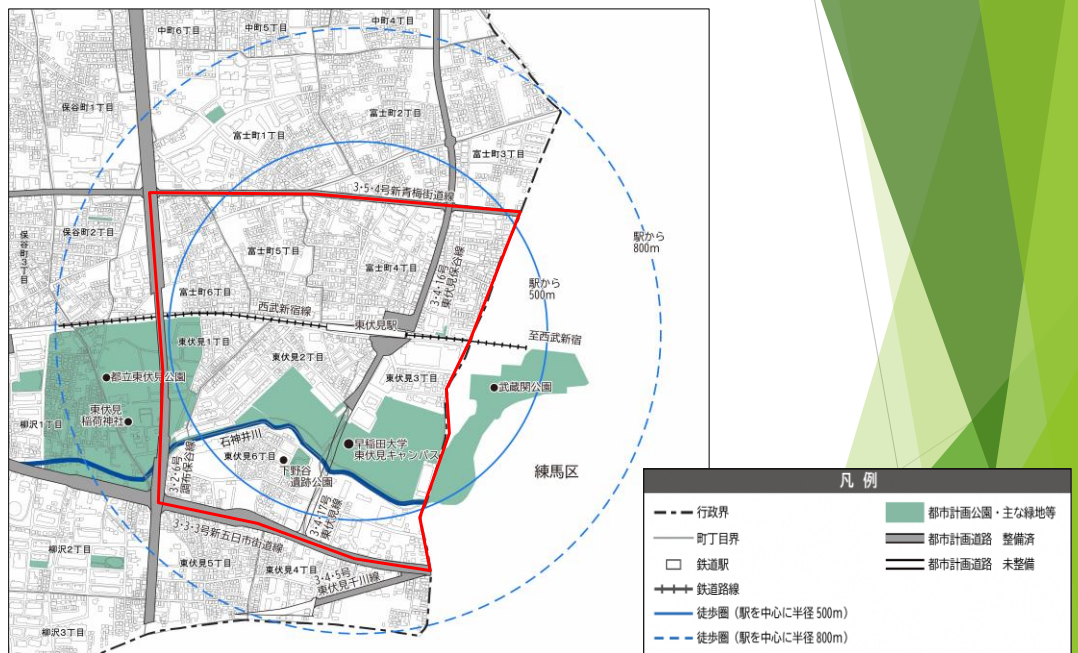
■ 事業範囲 (西東京市内)



(2) 東伏見駅周辺地区の現況と課題

■ 概況

《 位置図 》

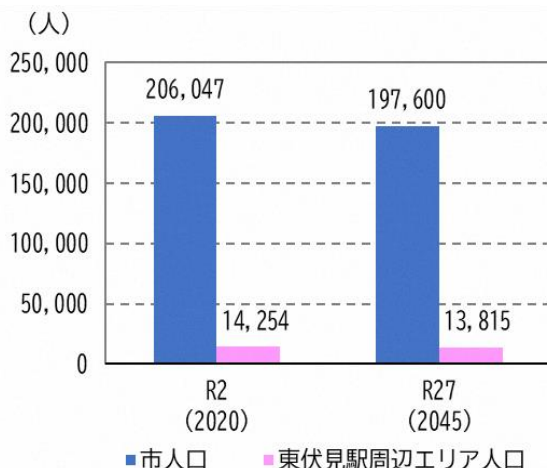


■概況

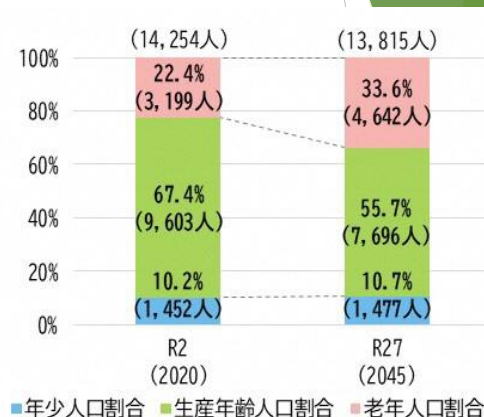
- ・東伏見駅周辺エリアは、練馬区に接する市の南東部に位置しています。
- ・駅北口は、小規模店舗が集積し、商店街が形成された商業地となっています。
- ・駅南口は、早稲田大学東伏見キャンパスやアイスアリーナが立地し、学生や利用者でにぎわいを見せており、その周辺にはスーパーマーケット等とともに商店街が形成されています。
- ・本エリアの周辺は、本市の広域交通軸を形成する、西東京3・5・4号新青梅街道線や西東京3・3・3号新五日市街道線、西東京3・2・6号調布保谷線があり、その沿道には中層住宅地をはじめ商業用地や公園用地等が立地しており、その後背地には落ち着いたある低層住宅地が形成されています。

■人口動向

《市全域及び駅周辺エリアの人口》



《駅周辺エリアの年齢3区分別人口》



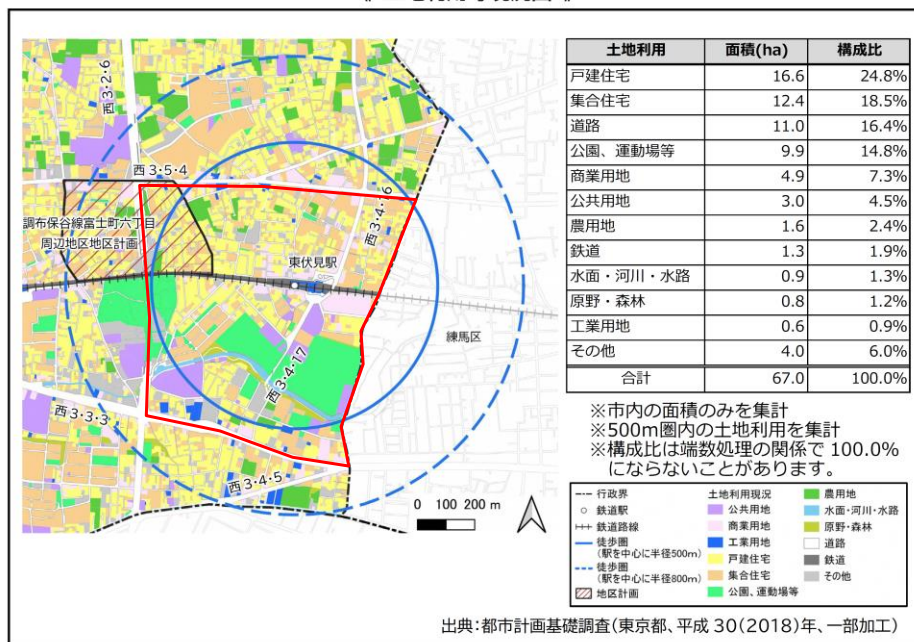
出典：統計にしようきょう（令和2（2020）年版）、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所、平成30（2018）年推計）
 ※駅周辺の人口は駅を中心とした半径500m圏にかかる以下の町丁目の合計（東伏見1～3、6丁目、富士町1～6丁目）

■人口動向

- ・本エリアの令和2（2020）年12月末現在の人口は14,254人（市全体の6.9%）にあたり、年少人口割合は10.2%、生産年齢人口割合は67.4%、老年人口割合は22.4%となっています。
- ・令和27（2045）年の将来人口は、13,815人（市全体の7.0%）と減少する推計となっています。また、年少人口割合は10.7%と横ばいで推移する一方、生産年齢人口割合は55.7%、老年人口割合は33.6%になると推計され、生産年齢人口が減少し、高齢化の進行が予測されています。

■土地利用

《 土地利用等現況図 》



■土地利用

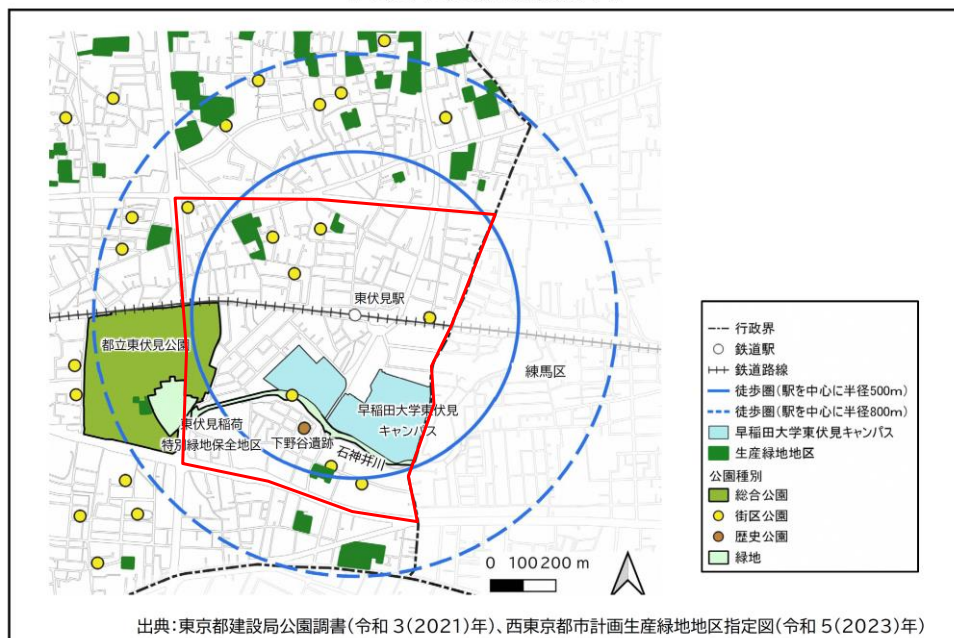
・駅北側は、住宅系土地利用が多くを占め、低層住宅と中層住宅による良好な住宅地を形成しています。また、西東京3・2・6号調布保谷線の周辺には、「調布保谷線富士町六丁目周辺地区地区計画」を定め、沿道サービス機能の確保をはじめ、みどり豊かな街並み景観の形成、防災軸を中心とした地域防災機能の強化、住環境の保全・改善を図っています。

・駅南側は、早稲田大学東伏見キャンパスやスーパーマーケットが立地しています。また、石神井川が流れており、石神井川沿いは都市計画緑地となっています。

・将来の人口減少及び老年人口割合の増加が予測されていることから、日常生活における利便性を更に充実させ、若年層やファミリー世帯等も住み続けたいと思えるよう、日常生活に必要な都市機能の維持・誘導等により、にぎわいと交流の創出を図る必要があります。

■みどり・水辺・都市景観

《 公園・生産緑地等現況図 》



■みどり・水辺・都市景観

- ・駅北側は、生産緑地がまとまり、みどりに囲まれた住環境となっています。
- ・駅南側は、東伏見稲荷神社、国史跡の下野谷遺跡等の歴史的資源や早稲田大学東伏見キャンパス、石神井川沿いの都市計画緑地などのみどりがあります。
- ・また、東京都では、都市施設の整備（都立東伏見公園、石神井川）を進めており、それらの整備とあわせて、下野谷遺跡、東伏見稲荷特別緑地保全地区、早稲田大学東伏見キャンパスなどの地域資源と一体となったみどり豊かなうるおい空間の創出を目指しています。
- ・これらのみどりと水辺の資源を積極的に保全・活用しながら、貴重な地域資源を活かした拠点形成や景観づくりを推進する必要があります。

■交通環境整備・人と環境にやさしいまちづくり

《 交通環境現況図 》



武蔵関第5号踏切



東伏見第1号踏切

■交通環境整備・人と環境にやさしいまちづくり①

・ 駅北側は、西東京3・4・16号東伏見保谷線及び北口交通広場や西東京3・5・4新青梅街道線が整備されています。整備された都市計画道路のうち、無電柱化されていない区間があるため、交通環境や防災性に課題があります。

・ 駅南側は、西東京3・4・17号東伏見線のうち、交通広場から東伏見駅南側交差点まで整備されています。

・ 武蔵関第5号踏切及び東伏見第1号踏切による歩行者、自転車、自動車交通の分断や錯綜など様々な課題があることから、東京都をはじめとした関係機関との連携により、西武新宿線の連続立体交差事業（井荻駅から西武柳沢駅間）を進めています。

■交通環境整備・人と環境にやさしいまちづくり②

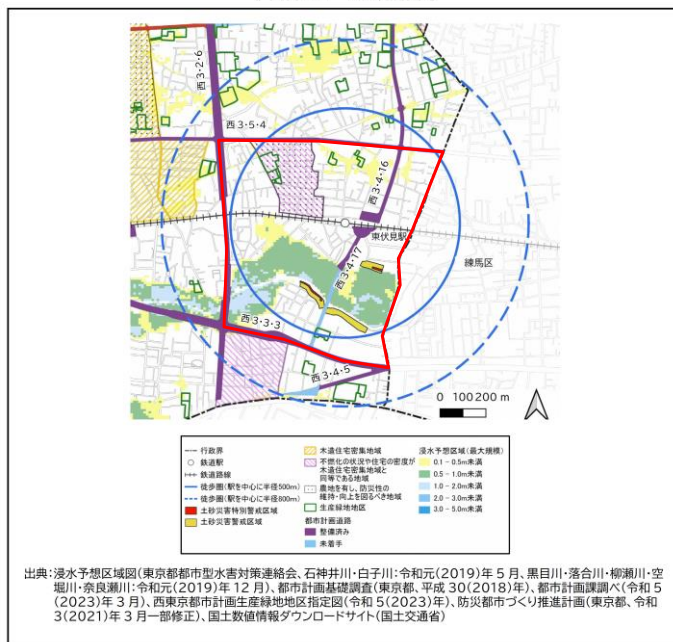
・ 西武新宿線の連続立体交差事業を見据えた東伏見駅周辺の住環境や公共交通の維持・向上、拠点にふさわしいにぎわいの誘導に向け、東伏見駅南口へのアクセス性向上に資する西東京3・4・17号東伏見線の整備推進や東伏見稲荷神社・下野谷遺跡などの歴史的資源などと連携した駅周辺の活性化が求められます。

・ 駅北側の交通広場には、路線バスやはなバスが乗り入れています。南側の交通広場は、はなバスが乗り入れています。西武新宿線の連続立体交差事業に伴い、駅前広場内の歩道や車道、バス発着場所などの配置変更について検討します。

・ 駅周辺には自転車駐車を整備し、自転車利用の需要に対応することで、放置自転車の抑制を図っていますが、今後も自転車利用の需要にあわせた環境整備に対応するため、動向を注視する必要があります。

■防災まちづくり

《 災害ハザードの現況図 》



■防災まちづくり

・本エリアの南側を流れる石神井川は、貴重な水辺空間となっていますが、ハザードマップにおいて、浸水予想区域があり、最大で1.0～2.0mの浸水深が想定されています。

・河川改修など、ハード・ソフトの両面から自然災害に対する安全性を高めていく必要があります。

・石神井川沿岸の一部の地域においては、土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域に指定されています。

・本エリアの北側の一部では、幅員の狭い道路や建物が密集しており、東京都策定の「防災都市づくり推進計画」において「不燃化の状況や住宅の密度が木造住宅密集地域と同等である地域」に位置付けられています。

(3) 質疑応答



(4) 意見交換



テーマ

東伏見駅周辺地区をどんなまちにしたいか

- ①テーマについて考えたことを付箋に書いてみてください。
- ②付箋に書いた内容をグループ内で共有します。
- ③付箋を、模造紙にグループ分けします。



今後のスケジュール

時期	内容	検討内容
令和6年度	第1回東伏見駅周辺地区まちづくり協議会	協議会の目的、まちづくり構想・まちづくり基本計画とは、連続立体交差事業の進捗報告など
	第2回東伏見駅周辺地区まちづくり協議会（本日）	周辺地区の現況共有、連続立体交差事業の進捗報告、意見交換など
令和7年度	東伏見駅周辺地区まちづくり協議会×4回	分野別方針に関する課題検討、市の方針案提示、まちづくり基本計画中間まとめ案提示など
令和8年度	東伏見駅周辺地区まちづくり協議会×4回	基本計画案検討、提言書検討など
	・オープンハウス ・パブリックコメント	

※時期や内容が変更になる可能性があります

テーマ

疑問に思っていることや市に伝えたいこと

①テーマについて、用紙に記入してください